夫人探索

夢野久作

一

「百万円あったら、ああしよう……こうしよう」

と空想していた青年中村芳夫は、思いもかけぬ伯母（おば）の遺産を受け継いで一躍百万長者になった。

芳夫は早速数万円を投じて素破（すば）らしい邸宅を建てた。そこに美姫と、美酒と、山海の珍味を並べて、友達を集めて昼夜兼行の豪遊をこころみたために、百万円は瞬く間に無くなって、些（いささか）なからぬ借財さえ出来た。その抵当に邸宅を取られた彼は、再びもとの通りの無一物になってしまった。

二

「不思議だ。奇怪だ。不可解だ。百万円を得ない前の自分と、失った後の自分との間には何等の相違もない。空想の百万円と実物の百万円とは、使用した結果から見ると全く同じものであった。おお百万円よ。お前は何のために自分に天降（あまくだ）ったのか。何故にかくも無意義に自分から消え去ったのか。おお百万円よ。お前はどこへ行った」

芳夫は腕を組んでこう考えた。識（し）っている限りの

人々にこの疑問を提出して解決を求めた。

三

山本という社会学者は云った「百万円をお前から奪い去ったのは、百万円自身である。お前が識ったことではない」

松井という法律学者は云った「お前自身がお前から百万円を奪い去ったのだ」

村上という心理学者は云った「お前の百万円を奪ったものはお前の心の中に居る。お前の心の奥に隠れて、

人知れずニヤニヤ笑っている」
又空誉(くうよ)という高僧はこう説(と)いた「百万円は無くなっていない。お前の心の中にチャンと隠されている。その百万円を取り返すには、お前から百万円を奪った、その心を探し出して殺して終(しま)うのが一番だ。そうすれば百万円の金は、自然とお前の身に帰って来る」

最後に万象という占断者(うらないしゃ)はこう判じた「これは天地否(てんちひ)という卦(け)です。自然の事を自然の順序に考えて行くと、万事が否定的のフン詰まりになるという、実に不可思議な玄理(げんり)をあらわした形です。すべての順序を逆にして、考えて行って御覧なさい。地天泰(ちてんたい)という

卦になって一切が泰（やす）らかに解決されてゆきます」

四

芳夫は思案に余ったあげく、高山という名探偵を訪問して一切の経過を打明けて頼んだ。

「僕の百万円を奪った奴を見付け出して下さい。百万円を取り返して下さい。成功すれば謝礼としてその半額を呈上します」

名探偵は快よくうなずいた。

「どうか葉巻を一本吸う間待って下さい。考えますか

ら」

五

葉巻が短かくなると、高山名探偵は窓の外へ投げ棄てた。組んでいた腕を解いて、事もなげに微笑した。

「百万円を奪った犯人は、あなたの心のほかに居ります」

芳夫は愕然とした。無言のまま眼を輝やかして一膝進めたが、名探偵は依然として微笑を続けた。

「それは一人の若い女性です。しかも非常な美人で、

学識といい、心操（しんそう）といい、実に申分のない処女です」

芳夫は思わず叫んだ。

「それはどこに居りますか」

「それを探し出し得る人は世界中にあなた一人です」

芳夫は面喰った。独言（ひとりごと）のように云った。

「いったい……それは……どういうわけで……」

名探偵は厳粛な口調で説明した。

「あなたは百万円を得られる前に、いろんな計劃を立てられたでしょう。それはどれもこれもスバラシイ理想的なものだったでしょう」

芳夫は無言でうなずいた。

「けれども、その計劃の第一着手として、理想的な美少女を令夫人に迎えることを、あなたは全く忘れておられました。あなたが百万円を得られると同時に、そうした立派な令夫人を迎えておられましたならば、あなたの百万円は一文も無意義に費されずに済んだでしょう」

青年芳夫の眼から熱い涙がハラハラと溢れ落ちた。

高山名探偵はその顔を凝視しつつ、断乎として云い切った。

「すなわち……あなたから、あなたの百万円を奪い去ったものは、あなたの未来の夫人たるべき、その美

少女です。あなたはその美少女から百万円を奪い返すべき権利があります」

六

中村芳夫は、高山名探偵の、こうした炯眼（けいがん）と推理力に心から嘆服（たんぷく）してしまった。涙と共に床の上にひれ伏した。

「どうぞ私と力を合わせて、その女を探して下さい。百万円の全部をあなたに捧げても構いませんから……」

名探偵は一議に及ばず引き受けた。

けれども芳夫青年から、百万円を奪い去ったたであろうほどの、理想的な若い女性は容易に見つからなかった。稀に居るにはいたが、芳夫から百万を奪った犯人であることを告白して、結婚の申込を承諾する少女は一人も居なかった。

芳夫青年と高山名探偵は、とうとう乞食同様になって、野たれ死にをしてしまった。

底本：「夢野久作全集３」ちくま文庫、筑摩書房
１９９２（平成４）年８月24日第1刷発行
入力：柴田卓治
校正：江村秀之
２０００年７月４日公開
２００６年３月10日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。